

令和7年度【2025年度】

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	亀高第二保育園
施設所在地	江東区北砂5-20-10-101
法人名	江東区

1. 活動のテーマ

<テーマ>

動く

<テーマの設定理由>

子どもたちはなぜ動く物へ興味関心を持つのか。
動くことに対するこどものイメージを広げながら、様々な動きを観察したり、身体を動かす、自由に表現することの楽しさを感じる中で、主体的に探究活動を楽しめるようにしていきたいと考えたため。また、園の特色である「体育」の中で36の動きを意識して活動しているため、より身体を動かす楽しさを感じられるようにしていきたいと考えたため。

2. 活動スケジュール

1回目：子どもたちが考える動くモノを言葉で共有する。
2回目：前回言葉で共有したものやその時に感じたことを体で表現する。
3回目：子どもたちが考える動くモノを自由に絵で表現し、どんな物を描いたか言葉で共有する。
4回目：子ども自身が動かすことのできる身近なもの（光）を使って自由にイメージし、言葉や動きで共有して遊ぶ。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

第1回：ホワイトボード
第2回：三角コーン、バトン
第3回：ロール紙、模造紙、ダンボール、油性マジック、色鉛筆、クレヨン、養生テープ
第4回：懐中電灯、ランタン、プロジェクター、すずらんテープ、カラーポリ袋、シーツ、生き物フィギュア

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- 第1回：自分が考える動くモノを言葉で表現しよう
- 第2回：自分が考える動くモノを体で表現しよう
- 第3回：自分が考える動くモノを絵で表現しよう
- 第4回：自分で動かせるモノで発見したりイメージを共有しよう

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- 【第1回】「動くって何?」「動くって見たことある?」という問いに対してこどもたちが自由に意見を出す。結果、130個の動くについて意見が出る。
- 【第2回】④保育者：「ティラノが大好きな〇〇ちゃんがティラノになってリレーしたいって話してくれているんだけど、みんないいかな?」1番にこだわる児に配慮し、リレーをスタートさせる。「ティラノリレーどうだった?」と感想を聞く。
- ④こども：リレーという言葉に喜ぶ。保育者の提案に「いいよー」と即答してくる。「ティラノリレー楽しかったー」と興奮した様子で伝える。
- 【第3回】③保育者：準備が整い、ホールに招待する。体育ベンチに座らせ、【使ったものは元に戻す】【紙の上が滑るから靴下、上履きを脱ぐ】という約束のみ確認する。
- ③こども：ホールに順番に入ってくるが「わあ〜」とわくわくした表情でホール内を見回す。約束事をしっかり聞く。
- ④保育者：「Mちゃん、Sちゃんが描いた海を泳いでいるみたいだね」と声をかける
- ④こども：壁に海を描いたSの前に馬場がうつ伏せで寝そべり、両脚を滑らせるように開いたり閉じたりしていた。声を掛けられると満面の笑みを浮かべ2人で笑い合う姿もあった。
- 【第4回】保育者「今日はこの懐中電灯とヘッドライトを用意しました。」と紹介して、こども達に手渡した。好きな方を手に取り、こども達は自由に壁や床に光を当てて動きや大きさの変化、色の違いを観察し始めた。「生きてるみたい」「光の色が変わった」「〇〇ちゃんの小さいね」保育者はこども達の気づきや言葉に共感し、一緒に光の動きなどを観察した。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

<第1, 2回振り返り>4歳児の語彙数（知識として使用できる単語の総数）が約2000語と増えてきたところでは、こども達の考える『動く』を言葉で知ることができ良かった。こども達が『動く』世界を言葉で表現する中で、こんなことを考えてる、見ているという新たな発見があった。その後、『動く』世界を体で表現したが、それぞれ言葉で共有したものを体現する児が多くいた。友達の動きを真似する姿もあったが、表現することの楽しさを感じとることができ、楽しかったという言葉が多く聞かれたことは良かった。

<第3回振り返り>こども達が思い思いの動くを伸び伸びと表現する姿があり、とても楽しんでいる様子が伝わってきた。またこどもの経験を保育者も一緒に経験することで、こども達の表現する『動く』世界を保育者が広げてあげることができた。こどもの動く世界に保育者が出たり入ったり、一緒に楽しむことでその世界がより楽しいものになっていくということにも気付かされた。保育者の存在やかける言葉はこども達にとって重要であると改めて感じた。

<第4回振り返り>電気を消したホールというあまり日常で活動しない環境だけでも、こども達の関心は大いに高まることに気づいた。材料や素材を用意しておくことでこども達自身が自発的に関わっていき、「言葉」のやりとりを通してイメージを共有していけること、また、保育者が想像（予測）していないような発想で遊ぶ見立てる力があることを改めて気づくことができた。自分で動かせる身近なものを通して光を取り入れたが、第1回～第3回の動くの活動でイメージを鮮明にしていたことが今回の豊かな発想につながったと感じた。